

日本語の使役表現と韓国語表現の比較

- 翻訳小説を資料とした韓日対照を通して -

蟹江美幸*
miyukikanie@yahoo.co.jp

<目次>

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. 背景と目的 | 5.2 韓国語の基本使役に対応しない例 |
| 2. 先行研究 | 5.2.1 韓国語の命令表現に対応する日本語の使役文 |
| 3. 韓国語の使役と日本語の使役 | 5.2.2 韓国語の可能表現に対応する日本語の使役文 |
| 3.1 韓国語の使役 | 5.2.3 韓国語の能動表現に対応する使役受身文 |
| 3.2 日本語の使役 | 5.2.4 別語で表現 |
| 4. 研究方法 | 5.3 配慮表現としての「視点」 |
| 4.1 言語資料 | |
| 4.2 研究方法 | |
| 5. 結果 | 6. 結論 |
| 5.1 韓国語の基本使役に対応する例 | |

主題語：使役(causative)、直接表現(directexpression)、視点(viewpoint)、配慮表現(politeness)、韓国語(Korean)、日本語(Japanese)

1. 背景と目的

韓国語と日本語は、文法的に類似点の多い両言語であり、韓国語を母語とする学習者にとって日本語は習得しやすい外国語である。だが、正しい日本語を使用したつもりであっても、両言語間の微妙な差異が現れた表現が原因となり、日本語母語話者との間で誤解が生じることがある。韓国語話者が使用する日本語表現の特徴は、直接的¹⁾であると言われる。そのような印象を与える原因は、韓国語のフィルターを通した日本語表現にある可能性がある。

* 愛知淑徳大学大学院 博士後期課程

1) 日本語話者が使用する日本語は、遠まわしや婉曲表現を用いた「間接的」な表現を用いるが、それに対して韓国語話者が使用する日本語は、間に何もはさまない「直接的」な表現を用いる傾向がある。

日本語の使役表現は、日本語学習者にとって、使用場面の選択が困難な項目の一つであり、ここにも直接的な表現となる原因が存在すると考える。摩擦や誤解なく、適切な場面で日本語の使役表現を使用するためには、学習者の母語である韓国語表現の特徴を正確に認識し、目標言語である日本語との相違点を明確にする必要がある。

翻訳小説に現れた、日本語「~せる」「~させる」表現に対応する韓国語表現のうち、韓国語の基本使役に対応しない表現を通して、日本語使役表現と、それに対応する韓国語表現の特徴を比較対照する。

日本語「~せる」「~させる」表現が、韓国語翻訳によって、どのような表現となって現れているかを検証することによって、語用的な特徴と直接的な表現となる原因を明らかにする。そして、韓国人日本語学習者を対象とする、日本語使役表現の指導における注意点の示唆とする。

2. 先行研究

使役文²⁾と受身文は、どちらも基本は能動文にある。能動文で表現した同じ状況も、話者の立ち位置によっては、使役文になったり、受身文になったりする。日本人は円滑なコミュニケーション実現のため、直接的な表現は避け、間接的に表現することが多い。話し手の意図する内容は同じであっても、日本語母語話者が受ける印象は異なり、表現によっては誤解に結び付く恐れがある。

韓国での「使役」の重要性について、小倉(2000)は、上位者が下位者に「させる」ことが韓³⁾くにの「縦」の人間関係の基本であり、この「させる」ということがうまくできない人は、韓くにでは決して尊敬されないという。小倉は、司馬遼太郎「街道をゆく28耽羅紀行」中の、「儒教社会では『ひとたび君子になれば、農作業や薪割りなどをしないし、もし、すると、小人たちが尊敬しなくなるのである』。しかしこの『君子ハ心ヲ勞シ、小人ハ力ヲ勞ス、という』のは、日本では、あまりあてはまりにくいのである。戦国期の築城の時などは、大名みずからモッコをかついで土を運んだ。作業士気を高めるための率先垂範ということなのだ

2) 本研究では、文法項目として、表現を指す場合は「使役表現」「受身表現」、構文を指す場合は「使役」「受身」、文単位を示す場合は「使役文」「受身文」という用語を使用する。先行研究については、著者が使用する用語に従う。

3) 小倉は「韓国」の意味で「韓くに」という呼称を使用している。本研究では「韓国」を使用する。

が、こういうことを同時代の中国や朝鮮⁴⁾でやれば、人心は離れるのに違いない』を引用⁵⁾し、「させる」社会である韓くにでは、受身の形式を日本ほど使わない、というのも特徴のひとつであると述べている。受身文の対照研究を通して、許(1999)も、両言語の特徴を見ると、日本語では受け身的な表現が好まれ、韓国語では能動的な表現が好まれると述べている。

福澤(2001)は使役が基本にあり、受動が派生的にあるという見地から、複数の言語を通して考察した。同じ出来事を使役と受身の両形で表現する場合、使役形は直接的には何も関与していないにもかかわらず、主観的・心理的に「責任」を感じている表現であり、間接受身形は第三者の被害・迷惑を表わしているという。

金(2002)は韓国語の使動態と日本語の使役表現を対照した。結果、韓国語の形態的使動は日本語の他動詞化に該当し、統語的使動は、日本語の助動詞セル・サセルが接続した使役表現に該当すると述べている。そして形態的使動と統語的使動の意味的差は、被使動主の行動に対する意思や、能力の介入程度によるとしている。

日本語の他動詞との関係について、李、菊池(2007)は、朝鮮語⁶⁾の4種類の動詞⁷⁾から派生した使役動詞と、日本語「~せる」「~させる」表現に対応する朝鮮語の動詞を分類した。つまり、動作動詞と過程動詞から派生した使役動詞のうち、使役、許容、放任の意味を表わす接尾詞使役形は^가 하^다使役形であり、状態動詞と過程動詞から派生した使役形動詞と、接尾形使役動詞の一部を他動詞としている。

日本語の使役表現は「強制」の意味で使われるとは限らない。瀬戸(2010)は日本語教育の立場から、母語話者の現状と日本語テキストにはずれがある、と指摘している。つまり、日本語テキストでは「許可求め」の用例が多いのにもかかわらず、実際に母語話者が使用する表現は「謙譲」の謙遜表現である。しかし、テキストには謙譲の謙遜表現は一例もないというのである。瀬戸の指摘から、日本語における使役表現は、強制や許可表現のためだけでなく、むしろ謙遜を表現するために必要な表現であることがわかる。

森田(1971)も、日本語では命令的な強い使役よりも、誘発や使令(しむける)などの消極的使役が主流を占めている事実を提示した。そして日本人は積極的にそうするという「為手」

4) 司馬は「韓国」の意味で「朝鮮」という呼称を使用している。本稿では「韓国」を使用する。

5) 小倉(2000)『韓国語はじめの一步』ちくま新書, pp.81-82

6) 李、菊池は「韓国語」の意味で「朝鮮語」を使用している。本稿では「韓国語」を使用する。

7) 4種類の動詞とは、①状態を表わす状態動詞(形容詞・指定詞・存在詞)、②状態の変化を表わす過程動詞(自動詞)、③動作を表わす動作動詞(自動詞・他動詞)、④動作とその結果としての状態を表わす動作過程動詞(他動詞)である。

の立場より、本能的・自発的にそうなるように持っていく、「受け手」の立場に立つ言い方を好むと述べている。これは日本人の伝統的な考え方・感じ方であり、このような日本人の心理構造は、日本の社会構造の特異性と無縁ではないとしている。

日本語の使役表現と韓国語の使動態は、一見すると対応関係にあるように見えるが、実際は対応していない場面があり、韓国語に翻訳することが難しい表現があるという。使役の意味や構文的特徴は類似しているものの、語用論的特徴には相違点が多いと推測される。受身的な表現を好む日本語に対して、直接的な印象を与えるといわれる、韓国語母語話者の日本語表現の原因の一つは、両言語間の差異にある可能性がある。

日本語の使役に関する先行研究は多く見られるが、日本語母語話者の視点で韓国語との比較対照をし、論じられた研究は見当たらない。日韓の表現の相違を、日本語教育の観点から検証し、語用論的特徴と直接的な印象を与える原因を明らかにしたい。

3. 韓国語の使役と日本語の使役

3.1 韓国語の使役

韓国語の使役動詞は「使動詞」と呼ぶ。韓国語の使役⁸⁾は大きく、「短形使役」「長形使役」の2つに分類される。短形使役は自動詞、他動詞、状態動詞の語幹に使役の接尾辞⁹⁾をつける。どの動詞に接尾辞が付くかは、語幹末音によってほぼ決まっており、非生産的である。

だが、接尾辞をつけて派生した使動詞が、必ずしも日本語の使役「～せる」「～させる」に対応しているとは限らない。自動詞から発生した他動詞や、形容詞から発生した動詞¹⁰⁾のこともある。また、使役の接尾辞이、히、리、기 は受身の接尾辞でもある。したがって使役にも受身にも解釈される場合があり、その区別は曖昧である¹¹⁾。

長形使役は自動詞、他動詞、状態動詞(에-게 하다¹²⁾)をつける。短形使役と比べて生産的で

8) 韓国語の「使役」という用語は、延世大学校出版の「外国人のための韓国語文法」に従った。

9) 使役の接尾辞とは、이, 히, 리, 기, 우, 추をいう。

10) 넓다(広い)→넓히다(広げる)のように、形容詞が他動詞となる。

11) 使動詞と被動詞の両方の派生形を持つ動詞の場合、補助動詞の有無や文脈で判断することになる。

12) いくつかの動詞については、-게 만들다とも言える。(河村、2010)

あり、用いられる範囲も広い。韓国語基本使役をまとめると、以下<表1>となる。

<表 1> 韓国語基本使役

種類	作り方	例
短形使役	語幹+이, 히, 리, 기, 우, 추	보다(見る)→보이다(見せる) 앉다(座る)→앉히다(座らせる) 울다(泣く)→울리다(泣かせる) 웃다(笑う)→웃기다(笑わせる) 비다(空く)→비우다(空ける) 맞다(合う)→맞추다(合わせる)
長形使役	自動詞、他動詞、状態動詞+게 하다	가다(行く)→가게 하다(行かせる) 먹다(食べる)→먹게 하다(食べさせる) 보다(見る)→보게 하다(見させる)
体言+시키다		공부하다(勉強する) →공부시키다(勉強させる)

また韓国語では、同じ動詞に短形使役と長形使役の両方を使用することが可能であるが、両者には意味上の相違がある。以下の例文(1)(2)に示すように、短形使役は主体の行為が直接的であり、主体が子供に対して「服を着る」行為をしている。長形使役の場合はその行為が間接的であり、主体は命令しただけで、「服を着る」行為を行うのは子供である、という違いがある。以下に例を示す。

- (1) 아이에게 옷을 입히다.(子供に服を着せる)→直接手を下して服を着せた。
- (2) 아이에게 옷을 입게 하다.(子供に服を着させる)→服を着るように命令した。

3.2 日本語の使役

日本語の使役は、日本の学校文法では、動詞の未然形に助動詞「せる」「させる」が接続されると説明される。学校文法の五段動詞、すなわち日本語教育において第1グループでは、語幹に使役の意味を表わす接辞[aseru]を、同様に一段動詞、すなわち第2グループでは語幹に使役の意味を表わす[saseru]が接続される。

変格活用動詞においては、カ行変格活用動詞「来る」は「来させる」、サ行変格活用動詞「する」は「させる」となる。日本語基本使役をまとめると、以下<表2>となる。

<表 2> 日本語基本使役

種類	作り方	例
五段動詞 (第1グループ)	語幹+aseru、 または「ない形」+せる	kak-u→kak-aseru 書く + aseru → 書かせる
一段動詞 (第2グループ)	語幹+saseru	mi-ru→mi-saseru 見る + saseru → 見させる
不規則動詞 (第3グループ)		来る → 来させる する → させる

日本語の使役文は、例文(3)のように、動作主の意思にかかわりなく、動作や行為を強いる「強制」を意味する場合と、例文(4)のように、動作主がその動作や行為を望んでいる場合の「容認、許可、放任」を表わす場合がある。以下に日本語使役文の例を示す。

- (3) 嫌がる子供に薬を飲ませた。(強制)
 (4) 夜遅くまで子供にテレビを見させたことを後悔した。(容認、許可、放任)

4. 研究方法

4.1 言語資料

本研究では、言語資料として、日本語小説とその韓国語翻訳、そして韓国語小説、童話とその日本語翻訳を選んだ。それぞれに翻訳があるため、同じ表現に現れる日韓の表現を、効率よく抽出することが可能である。さらに、日常会話における現れかたを検証するため、韓国映画シナリオ対訳集も資料に加えた。

これらの資料はすべて現代語で書かれている。しかも標準語である。そしてそれぞれ作家の母語による作品、翻訳者の母語による翻訳である。さらに小説やドラマであるため、場面の設定も明らかであり、そこで現れる表現の意図が明確である。

これらの理由から、日本語「~せる」「~させる」表現に対応する、韓国語表現の特徴を分析する適切な資料であると考えられる。

作家や翻訳者による、表現の偏りが生じる可能性は避けられない。表現の偏りを回避す

るため、作家と翻訳者が重複しない作品を選んだ。そして、作家が同じ作品については、翻訳者の異なる作品を資料とした。複数の翻訳家に共通して見られる表現は、韓国語母語話者による、韓国語として自然な表現であると考えられる。使用した言語資料については、参考文献の後に示す。

4.2 研究方法

「~せる」「~させる」で表現された日本語使役文を、資料より抽出し、それらに対応する韓国語表現と比較対照した。韓国語でも基本使役で対応している表現は、学習者にとって難しい表現ではないと判断し、本研究では分析の対象としない。

韓国語で表現しにくい日本語の使役文は、韓国語の基本使役以外に現れると考える。そして、それらの表現は、学習者の母語の物差しを通した日本語表現になりやすいと考える。

「韓国語の基本使役に対応しない、韓国語話者による日本語表現は、日本語母語話者には別の印象を与える表現である」という仮説を立て、その仮説のもとに、韓国語の基本使役として表れなかった例文に注目し、現れた例文の特徴により分類、分析する。日本語の使役文が、韓国語ではどのような表現として現れているか検証し、語用論的相違について考察する。

5. 結果

資料から抽出された、日本語「~せる」「~させる」表現に対応する韓国語表現を、韓国語の基本使役に従って分類した。抽出された例は 合計285例であった。

日本語「~せる」「~させる」表現に相当する韓国語表現のうち、韓国語の基本使役に対応している例は127例、44.6%見られた。それに対し、対応していない例は158例、55.4%であった。現れた表現の割合は、作品の内容や翻訳者の表現方法の影響を受けていると考える。

対応しない例は、韓国語原文の日本語翻訳より、日本語原文の韓国語翻訳に多く見られる現象があった。つまり、原文にない表現は翻訳にも表れにくい。したがって、「その他」に分類された、韓国語の基本使役に対応しない表現は、日本語特有の表現であると考えら

れる。また、それらは、韓国語に翻訳しにくい日本語表現であるが、韓国語母語話者である翻訳家により、自然な韓国語表現として表れていると考える。

<表 3> 日本語「~せる」「~させる」表現に対応する韓国語表現

作品名	告白	キッチン	ホテルカクタス	流しの下 の骨	楽器たちの 図書館	韓国現代 童話集	冬のソナ タ	合計	割合 (%)
이히리기	12	7	2	19	4	5	8	57	20.0
계 하다	5	3	2	6	0	3	26	45	15.8
시키다	7	1	4	8	1	1	3	25	8.8
その他	38	8	6	56	2	8	40	158	55.4
合計	62	19	14	89	7	17	77	285	100.0

単位, 文

調査の結果から、日本語「~せる」「~させる」表現に相当する韓国語表現には、韓国語の基本使役に対応しない表現が、多く存在することが明らかとなった。つまり日本語使役表現と韓国語の表現には、「ずれ」があることがわかる。それらの表現は、韓国語では命令表現、可能表現、能動表現など¹³⁾となって現れていた。

日本語小説の日本語は原文であり、韓国語小説の日本語は翻訳者によるものである。日本語直訳はすべて筆者による。

5.1 韓国語の基本使役に対応する例

日本語の使役「~せる」「~させる」のうち、44.6%の表現が、韓国語の基本使役に対応していることも明らかとなった。代表的な用例を注¹⁴⁾に示す。韓国語の基本使役に対応する日

13) 「その他」には、「目を輝かせて」「腰を浮かせて」「耳を澄ませて」のような「体の一部+を+させて」型を含む表現などが見られたが、本稿では扱わない。

14) ①私はず、あなた(渡辺君)のラブレターを見せました。(告白, p.267)

저는 먼저 와타나베 군의 러브레터를 보여주었습니다. (고백, p.267)

②私をひっぱり回して新しいアパートを決めさせたり、学校へひっぱり出したりしたんだろう。(キッチン, p.42)

나를 데리고 다니면서 집도 새로 구하게 하고 학교에도 나오게 했을 것이다. (키친, p.42)

③ところが弦楽器は弦を振動させて音を出すんですね。(악기들의 도서관, p.46)

그런데, 현악기는 줄을 진동시켜 소리를 내는 거죠? (樂器たちの図書館, p.47)

本語の使役文については、今回の分析の対象から外す。

5.2 韓国語の基本使役に対応しない例

日本語学習者にとって、使用場面の選択が難しい、日本語の使役表現は、韓国語の基本使役に対応しない例であると考えられる。日本語「~せる」「~させる」表現に対応する韓国語表現のうち、基本使役で対応していない表現の特徴に注目して、以下のように分類した。相違点を明確にするため、韓国語の例文には直訳を付けた。

5.2.1 韓国語の命令表現に対応する日本語の使役文

日本語「~せる」「~させる」表現が、命令表現に対応する例が、複数の作品に見られた。ここで見られた韓国語の例は、意志動詞の命令形¹⁵⁾であり、「命令」を表わす。

どちらの例文も、命題の内容は同じである。だが、例文(5)に見られる、日本語の使役文を用いた「打たせようか」は「容認」を表わす。発話者は動作主の行動を容認、許可、放任している。それに対して命令文を用いた「打ってくれ」は、「くれる」が付加された配慮表現であるが、意志動詞の命令文であるため、動作の意味は発話者にあり、動作主の意思の有無は現れていない。韓国語表現では日本語表現に含まれる、容認、許可、放任の意味はない。

例文(6)でも、日本語では、使役表現+「くれる」を用いて、「選ばせてくれた」とすることで、その行動に対して主体である母親から容認されたことと、母親への恩恵を意味する表現をしている。つまり、ソフトを選んだ主体である子供もその行動を要求しており、その行動表現が認められたことに感謝の意味を含ませている。この表現は強い命令ではない。

日本語表現では「選ぶ」ことを許可した相手を意識し、相手に照明を当てながら、視点は私から相手に行き、また私に戻っている。だが、韓国語翻訳「選べと言った」のように命令表現を用いると、母が私に「選ぶ」行動を命令した意味となる。被使役者の「私」に「選ぶ」意志があったかどうか明らかでない。韓国語表現の視点は母から私に直線的に向き、直接的な表現となる。例文(5)の直訳は筆者による。以下同じ。以下に例を示す。

15) 無意志動詞の命令形は願望を表わす。

- (5) 歌詞でも打たせようかな、と私が思っていると、 (キッチン, p.44)
 노래 가사라도 쳐달라고 할까, 하고 생각하고 있는데, (키친, p.31)
 (直訳:歌詞でも打ってくれと言おうか、と思っていると、)
- (6) 母親は(省略)、ゲームは当面の寂しさを紛らすために買ってくれたのか、好きなソフトを選ばせてくれた。 (告白, p.213)
 어머니는 당장에 찾아올 외로움을 달래기 위해 사주는 건지, 내게 좋아하는 소프트웨어를 고르라고 했다. (고백, p.212)
 (直訳: 母はすぐに訪れる寂しさを紛らわすために買ってくれるのか、私に好きなソフトを選べと言った。)

5.2.2 韓国語の可能表現に対応する日本語の使役文

日本語「~せる」「~させる」表現が、韓国語では可能表現で対応している例が、複数の作品に見られた。例文(7)に示す日韓どちらの例文も、主体に「人間味がない」ことを表現しているが、「全く感じさせない」はその主体に視点があるため、他者から強制されたのではなく、自発的な意味を含む。そして「全く感じる事ができない」は、動作の主体ではなく、話者に視点を置いているという違いが生じる。

このような理由から、使役表現を用いた日本語の「感じさせない」は、その本人に人間味がない原因があることを意味し、それが自然と話者が「感じる」ことを妨げている。それに対して韓国語の「感じる事ができない」については、その人物に人間味があるかどうかは別として、話者にはそれを感じ取ることができないと、話者の動作の可能性であり、話者側に視点がある。

例文(8)の日本語の「ビールを飲ませる」動作の主体は、店の店主であり、客の「飲む」という動作を容認する、促す意味であり、その容認が客の「飲む」行為につながっている。韓国語の「飲むことができる」の動作の主体は客にあり、客が「飲む」行為の実現可能性、権利があることを意味する。店主に視点は向いていない。

(9)についても、日本語表現では「見させて」と「させる」を用いて、「見る」という動作を望んでいる話者が、その動作が実行されることの許可を、相手に願う意味である。だが、「見られるように→見ることができるように」は、話者の一方的な要求が表わされているが、相手に対する配慮は表現されない。以下に例を示す。

- (7) 一部の子供の心の闇に、ルナシーという人間味を全く感じさせない猟奇的犯罪者の存在を植え付けただけ(省略)なのではないでしょうか。 (告白, p.27)
 인간미를 전혀 느낄 수 없는 루나시라는 엽기적 범죄자의 존재를 일부 아이들의 마음에 자리한 어둠에 각인시켰을 뿐(省略) 아닐까요. (고백, p.30)
 (直訳：人間味を全く感じる事ができないルナシーという猟奇的な犯罪者の存在を一部の子供たちの心に刻ませただけで(省略)なのではないでしょうか?)
- (8) ビールを飲ませるテラス付きのカフェや、(省略)レストランなどが軒を連ねていました。 (ホテルカクタス, p.100)
 맥주를 마실 수 있는 테라스가 딸린 카페며,(省略)레스토랑이 늘어서 있었습니다. (호텔 선이장, p.119)
 (直訳：ビールを飲むことができるテラス付きのカフェや、(省略)レストランが並んでいました。)
- (9) あなたの微笑をもう一度見させてくださいって、
 너의 미소를 다시 볼 수 있게 해달라고
 (直訳：君の笑顔を再び見る事ができるようにしてくれ。) (冬のソナタ, p.58)

5.2.3 韓国語の能動表現に対応する使役受身文

日本語の使役受身文が、韓国語の能動文に対応している例が、複数の作品に見られた¹⁶⁾。「使役受身」とは、使役で表現されたことが、さらに受身となった表現法である。行為は動作主によって強制されたものであり、その行為は被使役者にとって迷惑であり、嫌だと感じていることを、間接的に表わす、日本語特有の表現である。

日本語の使役受身文は、韓国語に翻訳しにくい表現であると言われる。韓国語翻訳ではどのような表現で現れているかを見ると、(10)の例文では「つけまわされて」가 쫓아다니다가(追いかけて)、(11)の「感染させられた」は감염되다(感染した)、(12)の「掃除させられた」は청소하다(掃除する)、(13)の「お手伝いをさせられる」は일을 거들게 하다(仕事を手伝うようにする→手伝わせる)のように、日本語の使役受身文は、韓国語では能動文となって現れている傾向が見られる。例文(13)の韓国語では、さらに、엄마는(お母さんは)と、動作をしむけた主体が明確に表現されていることがわかる。

16) 能動表現に対応する例は使役受身文に限定されたものではない。

韓国語翻訳の能動文では視点が行動主にあるが、日本語の使役受身文は被使役者にある。韓国語の能動文では、被使役者の否定的な被害の気持ちは表現できない。韓国語の表現では、動作の責任は動作主にあることを示す。以下に例を示す。

- (10) 気の狂った男につけまわされて¹⁷⁾、殺されたのだ。 (キッチン, p.73)
 미친 남자가 쫓아다니다가, 급기야 살해한 것이다. (키친, p.49)
 (直訳：狂った男が追いかけて、あげくの果てに殺害したのだ。)
- (11) 私の愛する息子はHIVに感染させられたのです。 (告白, p.142)
 제가 사랑하는 아들은 HIV에 감염된 것입니다. (고백, p.143)
 (直訳：私が愛する息子はHIVに感染したのです。)
- (12) そんな場所を一人で掃除させられるみじめさ。 (告白, p.162)
 혼자서 그런 장소를 청소하는 비참함. (고백, p.163)
 (直訳：一人でそんな場所を掃除しているみじめさ。)
- (13) 私たちが子供のころからさせられていた「お手伝い」。 (流しの下の骨, p.75)
 엄마는 이렇게 우리에게 일을 거들게 했다. (소란한 보통날, p.71)
 (直訳：お母さんはこのように私達に仕事を手伝うようにした。)

5.2.4 別語で表現

漢字語で対応する表現

日本語の使役文が、韓国語表現では別語で置き換えられている例が見られた。例を挙げると、「見せかける」が「偽装する」「假装する」、「これつきりにする」を「辭讓する」などのように漢字語で表現されている。日本語と韓国語では、共通する漢字語が8割以上である(油谷2006)ともいわれている。だが、例に見られるように、韓国語では日本語では使用しない場面で、漢字語を使用していることが多い。

漢字語から受ける印象について、大谷(2007)は、外来語は必ずしも元の語と同じ意味や語感を持つとは限らず、むしろ異なるのが普通であり、人々¹⁸⁾は使い分けていると、調査

17) 付け回す(五段活用)→つけまわさせる(使役形)→つけまわす(使役縮約形)→つけまわされる(使役受身形)
 18) ここでは日本人、日本語話者を意味している。

の結果示している。そして、漢語¹⁹⁾は緊張度が高く、堅い感じを与えると述べている。岡田(2011)も、漢語の語感について、やや距離があって固い感じであるという。つまり、漢字語と和語から受ける語感異なるものであり、漢字語は、日本語母語話者には強い印象を与える。以下に例を示す。

(14) 事故に見せかけようと、プールに落とすに違いない。 (告白, p.235)

사고로 위장하려고 수영장에 빠뜨린 게 분명했다. (고백, p.233)

(直訳：事故に偽装²⁰⁾しようとプールに落とすことが明らかだった。)

(15) 担任は、別れの挨拶と見せかけながら、事件の真相を語り始めた。 (告白, p.237)

담임은 이별 인사를 가장해 사건의 진상을 털어놓기 시작했다. (고백, p.235)

(直訳：担任は別れのあいさつを假装²¹⁾して事件の真相を打ち明け始めた。)

(16) これっきりにさせて下さい。

더 이상은 사양하겠어요

(直訳：これ以上は²²⁾辞譲²²⁾します。)

(冬のソナタ, p.50)

「行かせる」に対応する보내다

別語で表現された例として、「行かせる」を보내다²³⁾で表現した例が多く見られた。だが、「行かせる」と使役で表現すると、「行く」行為を話者が希望していることを表わし、「行く」主体にもその動作の意思があることが感じられる。容認、許可、放任の「使役」である。一方、韓国語の「送る」は、動作の主体に意志があるか明らかではなく、話者の意思で動作が実行される。以下に例を示す。

(17) 僕たちを行かせてくれる?

우리, 보내줄래?

(直訳：僕たち、送ってくれる?)

(冬のソナタ, p.318)

19) 「漢字語」の意味で使用している。

20) 偽装。(朝鮮語辞典)

21) 装うこと、見せかけること。(朝鮮語辞典)

22) 辞退、遠慮、辞讓、を意味する。(朝鮮語辞典)

23) 보내다には「放して自由にしてやる」(朝鮮語辞典)の意味があるが、ここでは「送る」と直訳する場合を意味する。

(18) 愛美を一人でプールに行かせることもなかった。 (告白, p.23)

마니미를 혼자 수영장에 보내는 일도 없었겠지요. (고백, p.26)

(直訳：まなみを一人でプールに送ることもなかったでしょう。)

(19) もしや子供たちが危ない目に遭わないかと心配で、外に出るのはもちろん、幼稚園にも行かせませんでした。

혹시 아이들이 해를 입지 않을까 두려워 밖에 나가는 것은 물론 유치원에도 보내지 않았습니
다. (大人のための現代童話2, p.88)

(直訳：もしかしたら子供が害を受けないか恐れて外に出ることはもちろん、幼稚園にも送
りませんでした。) (大人のための現代童話2, p.89)

5.3 配慮表現としての「視点」

「視点」という言葉は、普通2つの意味で用いられる²⁴⁾。1つは、どこから見ているかというときの“どこ”をさす場合であり、もう1つは、どこを見ているかというときの“どこ”をさす場合である(宮崎上野、2008)。本研究では前者の意味で「視点」を使用する。

物はどこに視点があるかで、異なるものに見えたり、または全く見えなくなったりすることがある。韓国語は日本語と「視点」が明らかに異なる。韓国語の視点は一点に留まり、一方にだけ向いている傾向がある。しかし、日本語の視点は一点に留まらない。発話者から動作主に向けていったん視点が移り、また発話者に戻ることもある。

言語行為には、それを行うことで、不可避免的に相手や自分のフェイスを侵害してしまうものがあるという。それをブラウン&レヴィンソンは「フェイス侵害行為(FTA)」と呼んでいる。円滑なコミュニケーションを実現させる方略として、私たちはさまざまなポライトネスを使用している。ポライトネスとは会話の場において表現、伝達される、主として相手のフェイスを侵害することに対する、軽減的、補償的な言語的配慮である(滝浦、2012)。

韓国語は相手のフェイスを喜ばせること、他者に受け入れられたい、良く思われたいという他者評価の欲求を顧慮するストラテジー、ポジティブポライトネスを使用する傾向があると考える。そのため韓国語では、能動的な表現を多く使用する結果となる。

それに対して、日本語はネガティブポライトネスを使用する傾向にあると言われる。ネガティブポライトネスとは、相手のフェイスを侵さないような言い方をすること、つまり

24) ①視線の注がれるところ。注視点。②物事を見たり考えたりする立場。観点「視点を変えて考える」「相手の視点に立つ」立脚点。(デジタル大辞泉)

他者に邪魔されたくない、踏み込まれたくない、という自己決定の欲求を顧慮するストラテジーである。

命題の意味は同じであるが、日本語のみに見られる、深層で概念化する命題内容の異なりは、社会・文化的フレームによる異なりによるものである(井出・櫻井, 1997)という。

日本語使役表現の深層にはバリエーションがあり、間接的な表現が多い。日本語には韓国語の直接的な表現では表現しきれない場合が存在する。日韓の社会や文化的な要素は言語表現にも影響を与えていることがわかる。

日本語の「視点」の移動は、ネガティブポライトネスの使用であると考えられる。能動表現を使用して話者の視点から直接的に表現するのではなく、容認、許可、放任の意味を含む使役表現を用いて、間接的に表現する。そうすることで、自分が直接手を下したのではなく、被使役者の意思に任せて、自然にその行動に結び付いたかのように表現する。そして被使役者にとって迷惑であり、いやだと感じていることを、直接的に迷惑であるとか、具体的な言葉で明確に表現することは避ける傾向がある。

その傾向の一つとして、日本語では間接的に表現の中にその感情を込めた「使役受身文」を用いることがある。つまり、視点の移動を伴いながら、相手のフェイスを侵害しないように表現する、日本語の使役表現は、「配慮」表現の方略として用いられていると考える。

視点が異なることで聞き手に与える印象は違う。例えば、以下(20)の例文にみられるように、日本語の表現「言わせてください」は、「言わせる」+「ください」で相手に対して、動作の許可を懇願する意味を含む配慮表現である。それに対して、韓国語表現の「言っておきます」は、明らかに話者からだけの視点で行動が実行される。そのため、明確で、直接的な印象を与える表現である。

このような直接的な表現は、伝える内容が肯定的である場合は、積極的で良い印象を与えるが、否定的である場合には、受け手に無配慮な印象を与えてしまう可能性がある。日本語表現として使用する場合は注意が必要である。以下に例を示す。

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| (20) そうなる前に、ひとつだけ、言わせてください。 | (告白, p.267) |
| 그렇게 되기 전에 한 가지만 말해두겠습니다. | (고백, p.266) |
| (直訳: そうなる前に、一つだけ言っておきます。) | |

6. 結論

日本語使役表現「～せる」「～させる」に対応する韓国語表現には、韓国語の基本使役に対応しない表現が多く見られた。それらは、命令表現に対応する表現、可能表現に対応する表現、能動表現に対応する表現、別語で表現される表現などとなって現れている。韓国人母語話者の話す日本語には母語の影響を受けた、これらの表現が現れる傾向がある。

容認、許可、放任を表現する日本語表現は、韓国語では命令表現となり、強制の意味を含む場合がある。また、自発的にそうなるという意味を表わす日本語使役表現は、韓国語では可能表現となり、話者の動作の可能性、権利を意味する。

また日本語では強制された行為に対して迷惑であり、嫌だと感じる「被害」の気持ちを間接的に表現する。日本語の使役受身文は、韓国語では直接的印象を与える能動表現となって現れる傾向がある。そして、漢字語など別語表現も見られたが、それらの表現を直訳すると、日本語表現の語感とは差異が生じる。以上の結果から、「韓国語の基本使役に対応しない、韓国語話者による日本語表現は、日本語母語話者には別の印象を与える表現である」という仮説は支持された。

韓国語と日本語の相違点は、まず「視点」にある。韓国語表現において視点は一点に留まり不動であり、一方方向にだけ向いているのに対して、日本語使役表現における視点は一点から複数の点に移動するように可動的である。

日本語使役表現は他者を意識しながら、発話者の行動の可能性をうかがう表現である。そのため、その行動が実現しない場合や、否定的な内容である場合は、被害や迷惑の意識も生じる。しかし、それらの感情を言葉で明確にしない。だが、対応する韓国語表現では他者を意識することなく、発話者の意志のとおり、言葉で直接的に表現する傾向がある。韓国語表現は方向を明確に示す、直接的な表現となっていることがわかる。

視点の移動こそが日本語の配慮表現であり、日本語では使役表現を使用することで、ネガティブプライトネスを使用している。そしてこれが、日本語の間接的な表現の特徴である。それに対して、韓国語の配慮表現は、視点が動かず、直接的に一方向に向かう表現を使用することにより、ポジティブプライトネスを使用していると考える。これこそ、韓国語の直接的な表現の特徴である。

どちらも配慮表現として正しいが、母語の物差しを通して、外国語である日本語表現を使用すると、日本語母語話者が受ける印象は異なるものになってしまう。日本語による、

円滑なコミュニケーションを実現させる場合は、日本語式フィルターを通した、視点の移動による、配慮表現が必要である。日本語の使役表現は、日本式配慮のひとつの方略である。

全く同じ命題を表現するとき、韓国語と日本語はその方略が異なる。野球の球種に例えれば、韓国語表現は直球である。しかも剛速球である。変化球も予想している日本語話者にとって、それは想定外のこともあり、直接的であると感じる。それに対して、日本語表現は直球ではなく、さまざまな変化球を投げる。スピードにもバリエーションがある。そして相手に知られないように投げられる。使役の表現においても、韓国語と日本語の語用論的相違は、言語の深層にある、このような文化差が影響を与えていると考える。

本研究では数冊の翻訳小説に現れた、日本語の使役文とそれに対応する韓国語表現を通して対照分析を行った。限られた資料から得た結果であるため、研究の客観性を高めるためには、今後さらに多くの翻訳資料にあたる必要がある。実際に現場で使用されている表現も加えて、言語資料を増やしていくつもりである。また、本研究では扱わなかった、能動文に対応する使役文については次の課題にしたい。

【参考文献】

- 李在鎬(2010)『認知言語学への誘い意味と文法の世界』開拓社
- 李蓮花・菊池悟(2007)「使役表現における日朝対応関係に関する一考察」『岩手大学教育学部付属教育実践総合センター研究』6, pp.15-21
- 井出祥子・櫻井千佳子(1997)「視点とモダリティの言語行動」田窪行則編『視点と言語行動』くろしお出版, pp.119-153
- 大谷加代子(2007)「美容用語に見る外来語の研究1」『山野研究紀要』15, pp.9-14
- 岡田英夫(2011)『日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識50』アルク
- 小倉紀蔵(2000)『韓国語はじめの一步』ちくま書房
- 河村光雅、李秀貞(2010)『しっかり身につく中級韓国語トレーニングブック』ベレ出版
- 許明子(1999)『日本語と韓国語の受身文の実証的対照研究—両国のテレビドラマと新聞コラムにおける受身文の使用率の分析を通して—』『世界の日本語教育』9, pp.115-131
- 金仁和(2002)「韓国語の使動態についての小考」『筑波応用言語学研究』9, pp.1-13
- 久野璋(1989)「第2章 視点」『談話の文法』大修館書店, pp.124-282
- 瀬戸彩子(2010)「日本語教育における使役表現について」『学習院大学国語国文学会誌』53, pp.126-127
- 高見健一(2011)『受身と使役—その意味規則を探る』開拓社
- 滝浦真人(2012)『ポライトネス入門』研究社
- 津田早苗(1999)『談話分析と文化比較』リーベル出版
- 任瑚彬・洪環杓・張淑人 共著、蔡洙静訳(2007)『韓国語文法』延世大学出版社
- 早津恵美子(1989)「有対動詞と無対動詞の違いについて—意味的な特徴を中心に—」『言語研究』95, pp.231-256

- 福澤清(2001)「使役から受身へ—対照言語学的観点から—」『文学部論叢』71, pp.69-82
牧原功(2012)「日本語の配慮表現に関わる文法カテゴリー」『群馬大学国際教育・研究センター論集』11, pp.1-14
宮崎清孝・上野直樹(2008)『視点』東京大学出版会
森田良行(1971)「受身・使役の言い方」『講座日本語教育』9, pp.18-42
森田良行(1998)「日本語使役文の研究」『早稲田大学日本語研究センター紀要』11, pp.191-204
油谷幸利(2006)『間違いやすい韓国語表現100』白帝社
油谷幸利、金恩愛(2012)『間違いやすい韓国語表現100初級編』白帝社
朝鮮語辞典(1993), 小学館, 韓国金星出版社
デジタル大辞泉, 小学館

<言語資料>

- 江國香織(2001)『ホテルカクタス』ビリケン出版
에쿠니 가오리 저, 신유희 역(2013)『호텔선인장』소담출판사
江國香織(1996)『流しの下の骨』新潮文庫
에쿠니 가오리 저, 김난주 역(2011)『소란한 보통날』소담출판사
湊かなえ(2008)『告白』双葉社
미나토 가나에 저, 김선영 역(2009)『고백』비채
吉本ばなな(1989)『キッチン』福武書店
요시모토 바나나 저, 김난주 역(1999)『키친』민음사
波多野節子訳(2012)『楽器たちの図書館』NHK出版
김중혁(2008)『악기들의 도서관』문학동네
パクインシク企画, 架け橋人の会訳(2007)『大人のための韓国現代童話集2』アルク
安岡明子翻訳(2004)『「冬のソナタ」で始める韓国語—シナリオ対訳集』キネマ旬報社

논문투고일 : 2014년 06월 10일
심사개시일 : 2014년 06월 20일
1차 수정일 : 2014년 07월 09일
2차 수정일 : 2014년 07월 15일
게재확정일 : 2014년 07월 20일

〈要旨〉

韓国語と日本語の使役表現比較

- 翻訳小説を資料とした韓日対照を通して -

韓国語と日本語は類似点の多い言語であるため、韓国語話者にとって日本語は、習得しやすい外国語である。しかしながら、文法的に正しく日本語を使用しても、両言語の差異が原因で生じる表現が原因となり、それが誤解につながることもたびたびある。日本語の「使役」は韓国人日本語学習者にとって難しい表現の一つであると言われる。

適切な場面で日本語使役表現を使うためには、学習者は母語の韓国語使役の特徴を正確に理解し、二つの言語の相違点を認識する必要がある。

両言語の語用的相違を明らかにするため、翻訳小説の中にみられる、日本語「せる」「させる」に相当する韓国語表現を通して、韓日使役表現を比較対照した。

調査の結果分かったことは、韓国語は日本語と「視点」の位置が異なることである。韓国語の視点は不動であり、これが韓国語の配慮を表わしている。一方、日本語は動的な視点によって配慮を表わす傾向がある。視点の違いこそ、配慮の相違であると考えられる。学習者が使用する日本語が直接的な表現になりやすいのは、この視点が原因である。このような語用的な特徴を明らかにすることで、日本語使役表現における注意点を示唆した。

A comparison of Korean and Japanese causative expressions

- Through the contrast of Korean and Japanese expressions in translated fiction -

There are a lot of similarities between the Korean language and the Japanese language. It is said that speakers of one can easily learn the other language. However, even if the learners use grammatically correct Japanese, the difference between two languages often cause another expression, which may lead to misunderstandings. Japanese “causative” is one of the difficult expressions for Korean learners.

In order to use Japanese causative expressions in appropriate situations, it is necessary for the learners to understand the characteristics of the Korean causative accurately and to recognize the differences between the two languages.

To clarify the pragmatic differences of both languages, I compared the Japanese and Korean causative expressions, which correspond to Japanese translation of “-seru” and “-saseru”.

As a result, I found out that the viewpoint of the Korean language is quite different from the Japanese language. The viewpoint of Korean is stationary, which represents the politeness of the Korean language. On the other hand, there is a tendency in Japanese to represent politeness with a dynamic viewpoint.

Korean learners tend to use direct impressions because of this viewpoint. I think the difference of the viewpoint is the difference of politeness. By characterizing it in a pragmatic manner, I suggested the point in Japanese causative expressions.